

＋ 美祭 —BISAI—

4月25日→5月6日
加島美術（京橋）⑬



伊藤若沖（鶏図）紙本水墨 125×53cm



川合玉堂（深村早春）紙本墨色 49×60cm



加島美術 展示風景

日本美術を「観る」から「買う」へ

毎年全国各地の美術館で話題の展覧会が開かれ、多くの観客が押し寄せる。その盛況ぶりに比べ、美術品を実際に買い求め生活の中で楽しむ層は決して多くない。経済的な理由だけでなく、「鑑賞」と「購入」との間には大きな意識の隔たりが、いまだにある。

目の肥えた鑑賞者の眼鏡にかなう日本美術の優品を集め、現代の生活スタイルに合った展示方法まで提案する加島美術（東京・京橋）の特別企画展「美祭—BISAI—」は、その隔たりを埋めようとする。「日本美術を「観る」から「買う」へ」を掲げた意欲的な催しだ。

1988年創業の加島美術は、美術館の展覧会に出品依頼を受けるなど、所謂「ミュージアムピース」を数多く取り扱ってきた。2007年には第1回の「美祭—BISAI—」を開催。美術館で展示されるような作品を間近で鑑賞できるだけでなく、古画から近・現代にいたる多彩な日本美術の優品約150点はすべて手に入れることができる展覧会の新たな在り方は話題となった。

以後春・秋に開催、この春で17回を数える。今回は総数約450点を展示・販売。

注目は伊藤若沖（1716—1800）の出陣だ。「奇想の画家」として近年再評価が進み高い人気を誇る若沖。実際に購入を前提としてその作品と向き合うとき、美術館とは違った高揚感が得られるだろう。

現代空間に溶け込む「和」を基調としたシックな展示スペースで日本美術が新たな表情を見せる。読み物としても充実した美しいカタログ、東日本大震災からの文化財レスキュー事業支援のチャリティー入札コーナーなどと併せ、「祭」と名乗るにふさわしい多彩な展開だ。

カタログ（無料）希望者は加島美術（03-3276-0700）まで。